

令和2年度広島県教育賞及び広島県教育奨励賞の 受賞者の決定について

令和2年度広島県教育賞及び広島県教育奨励賞の受賞者を、
本日（2月2日）の教育委員会会議で決定しました。

1 表彰の趣旨

学校教育，社会教育，体育・スポーツ，地域文化，教育行政のそれぞれの分野において，教育賞は功績が特に顕著なもの，教育奨励賞は成果等が他の模範として推奨できるものを県教育委員会が表彰し，県教育の振興・発展に資する。

2 受賞者（別紙のとおり）

広島県教育賞 個人 11名， 団体 ー
広島県教育奨励賞 個人 17名， 団体 4団体

3 その他

受賞者は，県教育委員会ホームページ「ホットライン教育ひろしま」で広く周知する。また，後日，受賞者からのメッセージを掲載する。

（表彰式は，新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から実施しない）

（参考）

区 分	創 設 年 度	延べ受賞者数（今回表彰分を除く。）
広 島 県 教 育 賞	昭和 44 年度	個人 465 名， 団体 51 団体
広 島 県 教 育 奨 励 賞	昭和 59 年度	個人 589 名， 団体 220 団体

令和2年度広島県教育賞受賞者

○個人

(年齢は令和3年2月2日現在)

区分	氏名 (年齢)	所属及び職名 (所在地)	功績等
学 校 教 育	もり 森 かわ 川 康 男 (60歳)	広島市立千田小学校 校長 (広島市)	校長として卓越したリーダーシップを発揮し、家庭や地域と連携した取組を推進するとともに、広島県連合小学校長会理事、広島市小学校長会会長等、各種団体の要職を歴任し、広く小学校教育の充実・発展に寄与した。
	きだ 定 かね 宗 譲 二 (60歳)	庄原市立庄原中学校 校長 (庄原市)	現任校において、生徒指導に係る諸課題の未然防止に向けた組織的な指導體制を確立するとともに、広島県中学校外国語アップグレード事業指定校として、新学習指導要領を踏まえた校種間の円滑な接続に向けた指導方法等の研究を推進した。
	ふじ 藤 い 井 哲 也 (60歳)	廿日市市立四季が丘中学校 校長 (廿日市市)	「授業の振り返りの工夫」等をまとめた授業スタイルを徹底して授業改善を進めた。広島県中学校教育研究会英語部会長を5年間務めるとともに、大竹市・廿日市市の生徒を対象としたグローバルキャンプを実施するなど、グローバル化に対応した。また、廿日市市中学校長会会長として市内の校長への指導、市教育委員会との連携に努め、市内中学校教育の振興に貢献した。
	ます 舂 かね 金 智 秋 (59歳)	東広島市立西条中学校 校長 (東広島市)	卓越した指導力とリーダーシップを発揮しながら人材育成、学校経営を行うとともに、広島県公立学校校長会連合会副会長、広島県公立中学校長会会長等、各種団体の要職を歴任し、広く中学校教育の充実・発展に寄与した。
	ふる 古 まえ 前 勝 のり 教 (60歳)	県立府中高等学校 校長 (府中市)	県教育委員会事務局に15年間勤務し、高校教育指導課長を2年務めるなど、本県の高校教育の発展に大きく貢献した。その後、7年間で2校の校長を務め、現任校では、単元末考査の導入やカリキュラム・マップの作成など、生徒が主体的に学ぶ学校づくりに向けた改革に尽力した。
	やま 山 した 下 睦 子 (60歳)	県立広島南特別支援学校 校長 (広島市)	言語聴覚士の資格を取得するとともに、聴覚障害児の指導に関する実践的な研究を行い、その成果を還元した。また、特別支援教育課長として6年間、行政職の立場で特別支援教育の充実に努めた。その後も、特別支援学校長会会長としてリーダーシップを発揮するなど、特別支援教育の発展に大きく貢献した。

令和2年度広島県教育賞受賞者

○個人

(年齢は令和3年2月2日現在)

区分	氏名 (年齢)	所属及び職名 (所在地)	功績等
地域文化	新谷隆之 (84歳)	世羅町文化財保護委員会 委員 (世羅町)	世羅町文化財保護委員会委員や「ヒョウモンモドキ保護の会」会長を歴任し、天然記念物分野の、調査・研究・保護活動に積極的に尽力してきた。平成13年には「世羅台地の自然」の刊行に編集委員として携わり、その後は、世羅町大田庄歴史館の企画展を監修するほか、関連講座の講師として活躍している。
	脇坂光彦 (76歳)	元東広島市文化財保護審議会 委員長 (東広島市)	東広島市文化財保護審議会委員として市内文化財の掘り起こしに努めた。また、広島県の古墳文化に関する調査研究を通して、甲立古墳や二子塚古墳の史跡指定・保存整備に尽力した。昭和47年に「芸備友の会」を結成し、現在までに52巻の会報誌を刊行する等、文化財に関する普及啓発活動を行っている。
社会教育	伊藤美智代 (68歳)	ひまわり21 代表 (呉市)	「ワールド・キッズ・ネットワーク」及び「ひまわり21」を設立し、外国人やその子供たちに、日本の文化に触れ合う機会の提供や日本語教室の運営、学習支援活動を行っている。また、外国人学習者に対して地域イベント等、積極的な地域参画を促し、地域住民との交流や地域への愛着醸成に貢献している。
	川本君子 (76歳)	しまなみ朗読会「わすれな草」 代表 (尾道市)	朗読録音ボランティアグループ「ひびき会」の中心として、視覚障害者の社会参画や学習意欲の向上に寄与するとともに、定期的な朗読研修会の開催等を通して、朗読の楽しさや奥深さを、広く地域に発信している。また、自らも「しまなみ朗読会『わすれな草』」を立ち上げ、朗読会を開催するなど、代表として精力的に活動している。
	河野隆昭 (86歳)	安芸太田町社会教育委員会議 議長 (安芸太田町)	安芸太田町社会教育委員として生涯学習の推進に尽力するとともに、子供たちが安全・安心して活動できる「子供居場所づくり」に努め、平成18年4月からの「放課後子供教室事業」展開に大きく貢献している。また、安芸太田町社会教育委員会議議長として、会議の円滑な運営に尽力している。

個人 11名

令和2年度広島県教育奨励賞受賞者

○個人

(年齢は令和3年2月2日現在)

区分	氏名 (年齢)	所属及び職名 (所在地)	功績等
学 校 教 育	いしかわ 眞紀 (52歳)	東広島市立龍王小学校 教諭 (東広島市)	ICT機器等を効果的に活用した学習活動の創造を目指して、児童の学習意欲の向上や教職員の授業づくりについて、日々の教育実践に生かせる研究を継続した。県内外において、講師として「タブレットの効果的な活用による主体的な学び」や「ICT活用の実践事例」等の発表を行い、学校におけるICT機器の活用・普及に尽力した。
	おく まりこ (45歳)	庄原市立庄原小学校 教諭 (庄原市)	外国語教育に関する確かな理論と高い実践力を持ち、小学校外国語パワーアップ事業のパワーアップリーダーとして研究推進の中核を担うとともに、「学力向上のための実践交流会」において、新学習指導要領の趣旨に即した授業づくりについて全体発表を行うなど、県内の小学校外国語教育を推進した。
	かげ なおこ (46歳)	呉市立和庄小学校 教諭 (呉市)	広島県立教育センター教員長期研修、エキスパート研修等で習得した高い専門性を生かし、広島県特別活動研究大会において、「低学年における学級会オリエンテーションと生活を楽しくするための学級活動の工夫」と題して実践を発表するとともに、広島大学や広島県、岡山県の教員と協力して共同研究「絵本プロジェクト」に取り組み、学級集団づくりに関する絵本を制作するなど、研究の推進や成果の普及に継続して取り組んだ。
	シュトロウ あやこ (34歳)	廿日市市立佐方小学校 教諭 (廿日市市)	小学校外国語パワーアップ事業のパワーアップ教員として授業提案を多く行うとともに、教職員研修において、学級担任が中心となり、クラスルームイングリッシュを用いながらALTと協力して行う授業を提案し、小学校の外国語科に向けた実践や小学校と中学校の外国語教育の連携にも大きく貢献した。これらの成果を廿日市内だけでなく、他市町にも普及するなど県全体の外国語教育発展に寄与した。
	すなやま かずみ (50歳)	海田町立海田西小学校 教諭 (海田町)	広島県特別支援教育研究大会、広島県特別支援教育校長研修大会をはじめ様々な研修等において、「通級による指導」の公開授業を実施、取組を発信するなど、中心的な役割を果たした。また、町立の全小中学校の通級指導教室開設に向け、町内各校の特別支援教育関係教職員に対し、知識や経験を伝達したり、自主的に研修会を開催したりするなど人材育成に努めた。
	たけぞえ ひさこ (46歳)	安芸高田市立吉田小学校 教諭 (安芸高田市)	「学力フォローアップ校事業」においては、低学年からのつまづきを分析し、個に応じた支援や学び合う集団を育てる授業づくりを組織的に行うなど実践を積み上げた。また、「外部専門機関と連携した英語授業力向上事業」の指定を受け、小学校外国語教育の充実に向けて、広島県内のリーディング校として大きな成果を上げた。

令和2年度広島県教育奨励賞受賞者

○個人

(年齢は令和3年2月2日現在)

区分	氏名 (年齢)	所属及び職名 (所在地)	功績等
学 校 教 育	やま だ よし こ 山 田 賀 子 (39歳)	福山市立南小学校 教諭 (福山市)	教務主任として「単元の学びの本質は何か」を問うことで「子ども主体の学び」を深める研究を中心となって推進した。特に学びの本質に向かうために、単元の導入を大事にした授業を実践することで、児童が単元で学ぶ内容や疑問点等を交流して明らかにするとともに、その後の学びにおいても児童の主体的に取り組む姿が見られる等の成果を上げた。
	あり まつ こう じ 有 松 浩 司 (41歳)	竹原市立吉名学園 教諭 (竹原市)	国語教育をはじめICT活用教育で研究を重ね、県内はもとより全国の研究大会や研修会で講師として自らの実践を発表した。現任校では広島県中学校教育研究会(視聴覚部会)の指定を受け、研究主任としてICT活用教育を学園の中心となって進め、研究の推進に貢献した。
	あか せ あや こ 赤 瀬 彩 子 (38歳)	尾道市立吉和中学校 教諭 (尾道市)	独立行政法人教員研修センター、広島県教育センター教員長期研修等で習得した専門性を生かし、生徒指導主事として、生徒に寄り添う生徒指導を組織的に展開するとともに、関係機関との連携を積極的に行うことで、暴力行為の減少や、いじめ事案の解決に貢献した。また、生徒指導や特別支援教育の視点を取り入れた授業を自ら実践し、若手教職員の人材育成に努めた。
	ひら た けんしろう 平 田 剣 士 郎 (32歳)	三次市立三次中学校 教諭 (三次市)	体験と道徳の時間を関連付けた「道徳学習プログラム」の開発、「考え、議論する道徳」の評価に対応できる「道徳ノート」の実践、地域に貢献する活動と道徳教育を結び付ける活動の充実に取り組み、児童生徒の郷土愛の高まりや自己有用感の向上等に成果を上げた。また、それらの授業実践を「道徳教育改善・充実」総合対策事業における研修用実践事例DVDに収録し全県に普及した。
	やま ちか じゅん こ 山 近 純 子 (47歳)	府中町立府中緑ヶ丘中学校 教諭 (府中町)	中学校外国語アップグレード事業のアップグレードリーダーとして、校区の小学校と連携を図りながら、外国語科において、より良い人間関係を構築していくために、どのような手段でコミュニケーションを図ることができるかを生徒自身に考えさせ、実践させる取組を行った。これらの授業を公開することで、中学校外国語科教育の指導力向上に向けて模範としての役割を担った。
	わた なべ ひろ ゆき 渡 邊 博 之 (33歳)	福山市立松永中学校 教諭 (福山市)	研究主任及び道徳教育推進教師として、生徒が「分かった」「できた」を実感できる授業づくりを国語や道徳などの授業実践、校内研修の企画・運営などにより牽引しており、組織的な学校運営において中心的な役割を果たした。

令和 2 年度広島県教育奨励賞受賞者

○個人

(年齢は令和 3 年 2 月 2 日現在)

区分	氏 名 (年齢)	所属及び職名 (所在地)	功 績 等
学 校 教 育	つじ 尚 美 (43 歳)	県立三次高等学校 教諭 (三次市)	パフォーマンス課題について、優れた実践を多く行い、広島県立教育センターの講座等での提案発表や京都大学 E. FORUM の研究紀要への掲載等を通して、実践の成果を最大限に還元している。また、「詳述」のルーブリックを生徒自身に作成させる実践研究が先行研究として引用される等、国語教育の学会で高く評価されている。
	に 荷 宮 つぐ 磨 (48 歳)	県立呉三津田高等学校 教諭 (呉市)	ICTを活用しながら生徒に考え表現させる授業を展開したり、リアリティのある教材の工夫を行ったりすることで、目指すべき資質・能力を育成する授業づくりの推進に尽力している。また、現任校及び前任校において、放送部を全国レベルに引き上げ、NHK杯全国高校放送コンテスト2連覇など顕著な成果を上げた。
	みや もと のり こ (47 歳)	県立世羅高等学校 教諭 (世羅町)	課題研究等において地域産業である農業の活性化に取り組み、新たな加工食品の製作の指導等を行うことで、地域課題の解決と農業教育の充実に大きく貢献した。また、その取組により環境大臣賞を受賞したり、海外で行われた地元の農業高校生徒との交流会において取組を紹介したりするなど、その成果を広く発信している。
	ひさ やま ゆ み こ (48 歳)	県立広島北特別支援学校 教諭 (広島市)	全日本特別支援教育研究連盟全国大会において、「働く意欲を育てる職業教育就労支援の在り方」の研究テーマに係る所属校での実践を発表し、研究成果を発信することを通して、特別支援教育の充実に貢献した。また、特別支援学校技能検定において審査・運営等に携わり、広島県内の特別支援学校における就職率の向上に貢献した。
体 育 ・ ス ポ ー ツ	あ 荒 き たか のり (47 歳)	広島県ソフトボール協会 技術委員長 (呉市)	広島県ソフトボール協会技術委員長及び中国ソフトボール協会指導者委員長として、ソフトボール競技の競技力向上及び普及・振興に貢献した。 平成 17 年から長きにわたり、国民体育大会ソフトボール競技・成年男子の監督を務め、第 63 回大会では優勝に導くなど高い指導力を発揮するとともに、学校体育授業及び部活動において小・中・高校生に対するソフトボール指導に熱心に取り組み、ソフトボール競技の普及、若手選手の育成強化に尽力している。

令和 2 年度広島県教育奨励賞受賞者

○団体

区分	団体名 (所在地)	功 績 等
学 校 教 育	福山市立千年小学校 校長 岸本 千香子 (福山市)	教科・学年の枠を超えた教育課程を編成し、児童が自分で「決める・選ぶ・考える」場を設定するなど、「子ども主体の学び」づくりを行っている。また、家庭学習の在り方を見直し、児童が自分に合ったやり方を選び、決めることができるよう改善を続けている。これまでの通知表による評価を見直し、自校作成のテストによる評価を行ったり、学習の過程が分かる個人のポートフォリオにまとめたりしている。
	庄原市立口和中学校 校長 中重 秋登 (庄原市)	令和元年度は文部科学省、令和 2 年度は広島県の「道徳教育改善・充実」総合対策事業の指定を受け、対話により考えを深める指導方法の工夫改善を行い、生徒の成長を促すための評価の在り方について研究を進めている。また、生徒会が中心となって、学校図書館を有効利用し、学校と地域、地域と生徒をつなぐ架け橋となることをねらいとして、図書委員と生徒有志が地域の高齢者宅を訪問して読み語りを行うボランティア活動を、「ホントノキズナ」プロジェクトとして実施している。
	福山市立城東中学校 校長 羽原 靖明 (福山市)	平成 30 年度から、生徒の新たな居場所として、「きらりルーム」を設置し、令和元年度からは、経済産業省の「未来の教室モデル校実証事業」の指定を受け、生徒一人一人の多様な学びを実現する場所となるように実践を行っている。企業が開発した「答えのない問いを協働的に解決する学習プログラム(探究学習プログラム)」を総合的な学習の時間に導入したり、EdTech や I C T 機器の活用を進めたりして、個に応じた学習に積極的に挑戦している。
社 会 教 育	Pクラブ・せら 代表 丸山 英治 (世羅町)	広島県が家庭教育支援事業として取り組んでいる『「親の力」をまなびあう学習プログラム(親プロ)ファシリテーターの会』として県内で最も早く発足し、家庭教育や子育てに関する保護者の学びをサポートしている。また、保育所・小中高等学校と連携し、保護者や生徒等を対象とした親プロの講座や独自の講座を行うなど、その活動や会の運営は、他市町の参考となっている。

個人 17 名 4 団体